

軟口蓋に発生した粘液貯留嚢胞の1例

川崎 五郎 柳本 惣市 水野 明夫

A Case of Mucous Retention Cyst of the Soft Palate

GORO KAWASAKI, SOUICHI YANAMOTO AND AKIO MIZUNO

Abstract : Mucous retention cyst occurring at the palate is relatively rare. In this paper, we report a mucous retention cyst arising at the soft palate of a 74 year-old man. He had complained of a mass in the right soft palate and was referred to our hospital by his physician. An elastic soft mass was palpable in this region. Under a clinical diagnosis of benign tumor, the patient underwent excision under general anesthesia. The histopathological diagnosis was mucous retention cyst. The postoperative course has been uneventful, and no recurrence has been detected to date.

Key words : mucous retention cyst (粘液貯留嚢胞), soft palate (軟口蓋)

[Received Jun. 29, 2010]

緒言

粘液貯留嚢胞は下唇に多く発生し、口底、舌、頬粘膜にもしばしばみられる。しかしながら口蓋部に発生することはまれで特に軟口蓋にみられるものはきわめてまれである¹⁻³⁾。この度、軟口蓋に生じた粘液貯留嚢胞の1例を経験したのでその概要を報告する。

症例

患者 : 74歳, 男性。

初診 : 1998年4月。

主訴 : 右軟口蓋部腫脹。

家族歴 : 特記事項なし。

既往歴 : 脳梗塞, 高血圧症のため内科医院通院中。

現病歴 : 1998年4月, 通院中の内科医院で軟口蓋部の腫瘤を指摘され, 当院を紹介された。

現症 :

全身所見 : 体格中等度, 栄養状態良好。

口腔内所見 : 右軟口蓋に10 × 10 × 7 mmの弾性軟の腫瘤を認めた(写真1)。表面は正常粘膜に被覆されており, 表面は一部発赤がみられたが, 圧痛および自発痛は認められなかった。硬さは弾性軟であった。

臨床検査所見 : 異常値なし。

臨床診断 : 軟口蓋良性腫瘍。

処置および経過 : CTによる検査では, 明らかな病変は同定できなかった。術前検査では全身状態に異常所見は認められず, 1998年5月, 全身麻酔下に生検をかねて腫瘍切除術を施行した。すなわち, 腫瘤の周囲約5 mmの範囲で, 粘膜下組織を含めて切除し, さらに切除断端部にみられた小唾液腺組織も併せて切除した(写真2)。切除部にベスキチンシートを貼付し, アクロマイシンガーゼによるタイオーバー法を行った。術後の経過は良好で, 上皮化は十分進行し再発傾向はみられない(写真3)。

病理組織学的所見 : 摘出物には腫瘍性変化は認められなかった。粘膜下組織は浮腫状で, 明らかな嚢胞壁は認められず, 肉芽組織が認められた(写真4)。周囲には軽度の炎症を伴う唾液腺組織(口蓋腺)と粘液の貯留が認められた(写真5)。

病理組織学的診断 : 粘液貯留嚢胞

考察

粘液貯留嚢胞は唾液の流出障害によって生ずる嚢胞で, 粘膜下の小唾液腺に関連して生ずることが多い^{1,2)}。

好発部位としては, 大半は下唇に発生し, 次いで頬部, 舌にもみられるが, その他の部位にみられるものは少ない¹⁾。口蓋部に生じた粘液嚢胞の発生頻度は本邦では, 重

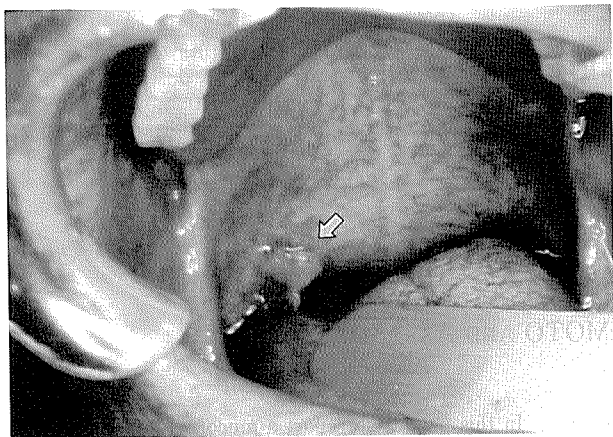


写真1 初診時の口腔内所見
右側軟口蓋部に大きさ10×10×7mmの弾性軟腫瘤を認める(矢印)。

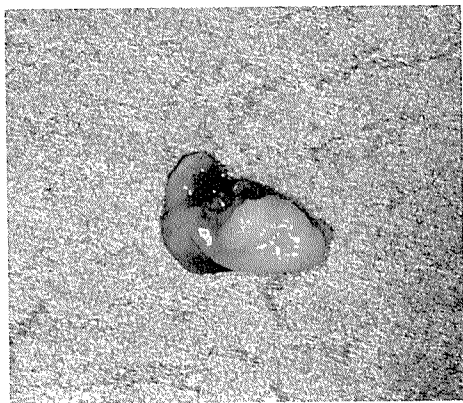


写真2 切除物所見

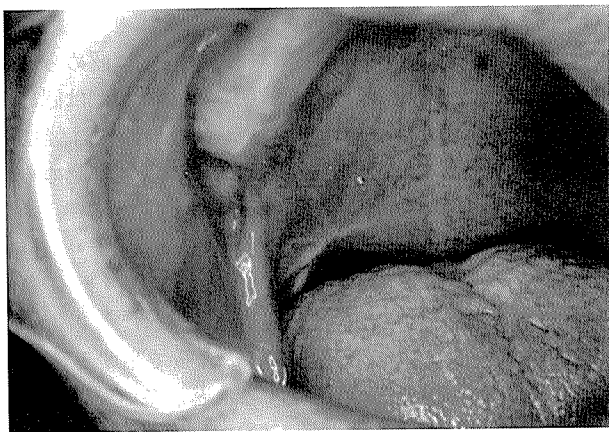


写真3 手術後6か月経過後の口腔内所見

松ら²⁾が184例中1例(0.5%), 大久保ら³⁾は321例中3例(1%)であったとし、黒豆⁴⁾は126例中に、小澤ら⁵⁾は143例中に、口蓋に生じたものはみられなかったとしている。一方、欧米では、Harrison⁶⁾が400例中12例(3%)

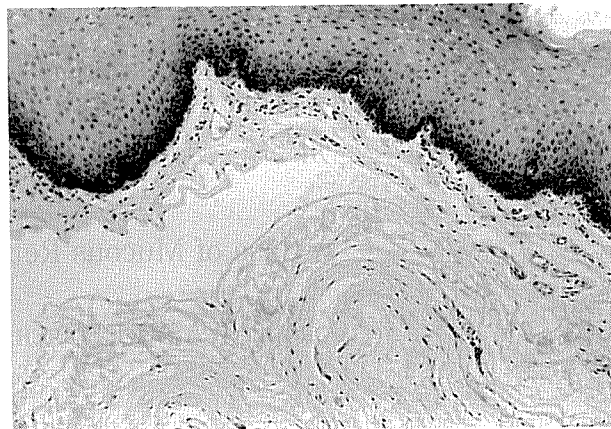


写真4 摘出物の病理組織像(HE染色, ×100)
粘膜下組織は浮腫状であった。

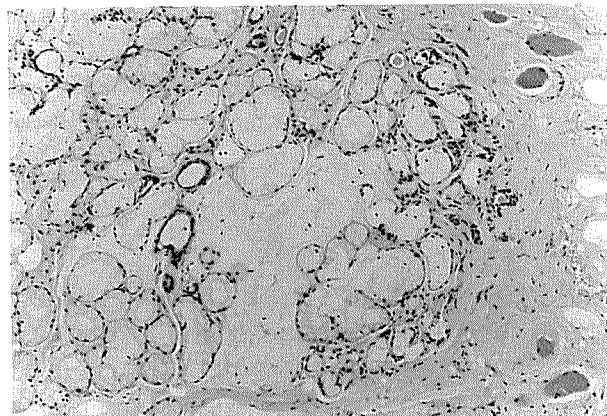


写真5 周囲の小唾液腺の病理組織像(HE染色, ×400)
唾液腺組織に囲まれた部分(写真中央)に粘液の貯留が認められる。

であったと報告しており、本嚢胞が口蓋部に生ずることはまれであると思われる。1例報告としては、われわれの渉猟しえた範囲では硬口蓋部にみられた症例の報告は少なく^{3,7)}、特に軟口蓋に発生した症例は本報告例を含めてわずか11例のみであった⁸⁻¹⁶⁾。

組織学的には、内面を上皮で被覆された明瞭な嚢胞腔を有するもの(停滞型)と、そうでないもの(溢成型)とが区別される¹⁷⁾。停滞型は、導管の閉塞により生ずるとされ、溢成型は、導管の一部に損傷により唾液が流出し、その唾液成分の周囲を線維成分が取り囲むことによってできる。粘液嚢胞の多くは溢成型に属するもので、停滞型は少ないが、溢成型でもその半数内外は明瞭な壁で囲まれた嚢胞腔の形成を認めるとされる¹⁾。重松ら²⁾は、溢成型で明らかな嚢胞壁の形成がみられないものをⅠ型、明らかな嚢胞壁の形成が認められるものをⅡ型、嚢胞壁の全周にわたって上皮裏層の観察されるもの(停滞型)をⅢ型として分類し、ほとんどがⅠ型とⅡ型であったとしている。

本報告例の場合、明らかな嚢胞壁は認められず、通常みられるような溢出型で、重松らの分類でI型であると思われた。

成り立ちあるいは病因については、外傷ないしは機械的刺激を主とする外的因子が重要視されているが、本報告例では、慢性刺激因子となる可能性のある義歯床縁からは離れており、病因の特定はできなかった。

治療法については、関連小唾液腺を含め健常組織を一部切除する摘出術が勧められ、周囲の唾液腺組織の十分な摘出が再発防止策として重要である。

口蓋部発生症例での再発に関するこれまでの報告はみられないが、重松ら²⁾は184例中13例に再発がみられ、全例溢出型であったとしており、術後の十分な経過観察が必要であると思われる。

結 語

この度われわれは、74歳男性の軟口蓋にみられた粘液貯留嚢胞の1例を経験したので報告した。

謝辞 稿を終えるにあたり、診断・治療にご協力頂いた長崎大学大学院医歯薬学総合研究科歯学系口腔病理学分野の方々へ深謝いたします。

引用文献

- 1) 石川梧郎, 秋吉正豊: 口腔病理学Ⅱ, 改訂版, 永末書店, 東京, pp. 429-433, 1982.
- 2) 重松久夫, 江田 哲, 齊藤一彦, 他: 粘液嚢胞の臨床病理学的検討. 口科誌, 45: 258-262, 1996.
- 3) 大久保章朗, 松井竜太郎, 宮原麻由美, 他: 硬口蓋に発生した貯留型粘液嚢胞の1例. 日口外誌, 42: 1224-1226, 1996.
- 4) 黒豆照雄: 口腔粘液嚢胞の臨床病理学的研究. 日口外誌, 29: 393-403, 1983.
- 5) 小澤孝紀, 水野明夫, 中村寿秀, 他: 小唾液腺停滞嚢胞の検討. 口科誌, 36: 138-144, 1987.
- 6) Harrison, J.D.: Salivary mucoceles. Oral Surg, 39: 268-278, 1975.
- 7) 下山哲夫, 堀江憲夫, 那須大介, 他: 硬口蓋に生じた停滞型粘液嚢胞の1例. 日大歯学, 70: 631-633, 1996.
- 8) 堀尾哲郎, 木村晃大, 沈 發智, 他: 口蓋に生じた貯留型粘液嚢胞の稀な1例. 松本歯学, 28: 75-78, 2002.
- 9) Ellis, S.G., Lee, N.J. and Peckitt, N.S.: Mucous retention cyst of the soft palate: a case presentation. Dent Update, 22: 421-422, 1995.
- 10) 二宮史浩, 恒吉隆奥, 竹之下康治, 他: 1歳児の軟口蓋に発生した粘液貯留嚢胞の1例. 小児口腔外, 18: 21-24, 2008.
- 11) 高田 訓, 中江次郎, 宮島 久, 他: 乳児口蓋垂に見られた先天性粘液貯留嚢胞の1例. 日口外誌, 42: 445-447, 1996.
- 12) 齋藤謹子, 木下由香里, 岡田裕之, 他: 口蓋に発生した粘液貯留嚢胞の1例. 日大口科誌, 30: 140-142, 2004.
- 13) 山川摩利子, 川口辰彦: 乳児の軟口蓋部に生じた粘液貯留嚢胞の1例. 小児歯誌, 42: 304, 2004.
- 14) Inoue, A., Ikeda, S., Mizuno, Y., et al.: Superficial mucoceles of the soft palate. Dermatology, 210: 360-362, 2005.
- 15) Jinbu, Y., Tsukinoki, K., Kusama, M., et al.: Recurrent multiple superficial mucocele on the palate. Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol Endod, 95: 193-197, 2003.
- 16) Bermejo, A., Aguirre, J.M., Lopez, P., et al.: Superficial mucocele, report of 4 cases. Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol Endod, 88: 469-472, 1999.
- 17) Cohen, L.: Mucoceles of the oral cavity. Oral Surg, 19: 365-372, 1965.